

11月議会終わる（12月10日）

意見書は日本共産党提案の1件を含む4件を可決 慣例の海外視察に自民・民主・新政の11議員

12月10日の本会議で議案の採決が行われ、日本共産党は市長提出58議案のうち5件に反対、議員提出4議案のうち1件に反対しました。意見書・決議は16件が提出され5件を可決（辞職勧告決議は11月21日に議決）しました。

意見書3件を提案・・・日本共産党

意見書・決議は開会冒頭に可決した河合議員の辞職勧告決議をはじめ16件が審議されました。日本共産党提案の3件のうち「福祉・介護職員の処遇改善と人材確保に関する意見書」が可決しました。

4年に一度の海外視察には反対

4年に一度の慣例となっている海外視察が、日本共産党以外の賛成で認められました。来年2月5日～12日にタージマホールで有名なインドのアグラ市などを調査する計画です。中里高之、中田ちづこ、横井利明、渡辺義郎（以上自民）うかい春美、おかどめ繁広、久野浩平、渡辺房一（以上民主）加藤修、舟橋猛、山寄正裕（以上新公会）が参加します。

可決された意見書案

- *福祉・介護職員の処遇改善と人材確保に関する意見書
- *障害を理由とする差別の禁止に関する法制度確立を求める意見書
- *患者数が特に少ない希少疾病用医薬品（ウルトラ・オーファンドラッグ）の開発促進・支援のための法整備等に関する意見書
- *原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律改正を求める意見書

海外視察の行き先



議運理事会が断続的・連日の会議（12月6日・7日・10日）

**身勝手な
減税日本**

受任者名簿は今回の「選挙はがき」に使用 市長は議会や公務もそっちのけで応援に

リコール署名の受任者名簿を「未来」に流用

名古屋市議会のリコール署名の受任者名簿が、「未来の党」の選挙活動に流用されていることが発覚、議運理事会で、減税日本ナゴヤの幹事長に事実確認を求めたところ、リコール署名簿を管理しているとされる「ネットワーク河村市長」の名簿管理者の平野氏が、流用を認めました。衆議院選挙の公示前に、「ネットワーク河村市長」名の封筒で、愛知1区、2区、3区、5区の旧「減税日本」系の「未来の党」候補者のチラシを受任者名簿で郵送。公示後は、同じく「未来の党」候補の選挙ハガキの郵送に使われました。その数、約2万通。

「受任者名簿を選挙・政治活動に使用しないことを求める請願」が8月22日の総務環境委員会で採択され、「ネットワーク河村市長」に選挙・政治活動に使用しないことを要請する議会決議をあげるかどうかの協議の最中に、選挙流用が明らかになりました。

理事会では、「選挙活動に使わないことを確認する」

決議をあげようと協議しましたが、減税日本ナゴヤが反対。次の市議選で名簿を使いたいのでしょうが、「減税日本」の選挙や「未来の党」の選挙利用のために名簿が利用されることを認めていたのでしょうか。

選挙応援で市役所を不在にした市長に抗議

4日の公示日の午後、5つの常任委員会で市長が提案した議案の審査が行われていました。そのころ河村市長は、愛知3区の「未来の党」候補の応援で、自転車街宣をやっていました。

議会運営委員会理事会は、6日、委員会開催中に市役所を不在にして選挙応援に飛び回った河村たかし市長にたいして、厳重に抗議しました。市長は、「遊説予定も変更して、連絡があれば、市役所に戻れるようにしていた。議会に心を配ったつもり」などと釈明。委員会からの出席要請に即座に対応せず選挙応援とは、とても真摯に市政にとりくんでいるとはいえません。最後は市長も、「抗議は真摯に受け止める」と言いました。